



sponsored by **TOWNWORK**

ファイナリストインタビュー

Campus Life+1 に出て変わったこと

今回で7回目の開催となる「Campus Life+1」。これまでに多くの学生たちが夢をエントリーしてきました。その中で、厳しい予選を勝ち抜いたファイナリストたちのその後をインタビュー。Campus Life+1を経てどのように彼らが変わったのか聞いてみました。

NYのカーネギーホールで演奏 夢への大きな一歩を踏み出した

日本一の和太鼓奏者になる！

きっかけはキャンパスライフフナ

学生時代、和太鼓に魅せられプロ奏者として活動している浅野さん。彼の分岐点となったのが、キャンパスライフフナだった。

「自分の夢に対して真剣に考えることができた。当初は就職も考えていましたが、私の演奏を聞いて喜んでくださる方を見て、プロとして活動することを決意しました」

大学卒業後は、和太鼓奏者のチームや和楽器のバンドに所属。そして、昨年浅野さんは大きな成果を残す。音楽の殿堂で演奏を披露したのだ。「ニューヨークのカーネギーホールで

1週間公演をすることができたんです。津軽笛の奏者と現地のバイオリンやピアノ奏者などの公演だったのですが、スタンディングオベーションをいただくことができました。何より日本の文化を伝えられたのがうれしかったです」

今年も再びニューヨークでの演奏や、津軽でカーネギーホールのリバイバル公演を行う予定。また、地元名古屋での活動も増やしたいと話す。

「私もまだ夢の途中ですが、キャンパスライフフナに参加するという行動を起こしたことで、今の私があると感じています。夢を夢のままに終わらせないように、アクションを起こすことがおすすめです」



浅野 聡太さん(24歳)

愛知県名古屋市出身。2015年Campus Life+1に参加し、準グランプリを獲得。現在はプロの和太鼓奏者として活動。

Campus Life+1

で得たもの

「副賞で2週間のアメリカ旅行をいただくことができました。現地で活躍する和太鼓奏者と交流を深めることができたのですが、彼らは日本に住んでいないことを言い訳にせず、和太鼓の可能性をひたむきに追求していました。その姿に自分も負けられないと思いました」



はじめてのニューヨークで当初はナーバスになったものの、演奏する頃には気合いが勝っていたそう。現地の人々はもちろんのこと、現地で暮らす日本人も訪れた。演奏後、「また来て欲しい」や「ワークショップで教えて欲しい」という声も。

みんなの夢、掲載中! 詳しくはコチラ!

インタク

検索

<http://entac.jp/>



協賛: **TOWNWORK**

お問い合わせ先:

学生コミュニティサロン「エンタク!」
TEL052-241-8100 (受付時間/平日9:00~18:00)

